



# 全国ビオトープコンクール『銀賞』受賞

## 「いのち」輝くみずほの子 「いのち」輝くビオトープ

財団法人日本生態系協会が主催する「全国ビオトープコンクール 2007」目がかがやいているね、ビオトープ」にエントリーしたところ、地域の関りや、デンジソウの保全などが評価され小中学校部門で『銀賞』を受賞しました。

2007年の3月からつくりはじめたビオトープ。たくさんの子も達先生、保護者・地域の皆様、そして行政、企業、団体、様々な方に関わっていただき、どんどん進化しています。地域の方と一緒に立ち上げた、花壇・ビオトープボランティア「みずほ花俱樂部」も本格的に活動を開始しています。先生方とビオトープを中心に学校環境を考えていく「環境プロジェクト委員会」も楽しい話、夢のある話で盛り上がりつつあります。子ども達のためにPTAと先生と地域がビオトープを通して連携することをさらに目指していきます。水と緑がきらきら輝き、そして子ども達

らきら輝く、そんな学校になればと願っています。卒業アルバムの写真撮りでは、ビオトープ付近で写真を撮りたい！と言う子ども達が続出。今年の卒業アルバムからはビオトープとともにきらきら輝く子ども達の笑顔がたくさん登場します。

### 命のつながり

今回のコンクールで評価されたデンジソウの保全。このデンジソウ(四葉のクローバー)みたいなシダ植物)は、昔はどこにでもあった植物ですが今は絶滅危惧種に指定されています。伊丹で最後の自生地は瑞穂小学校区

の田んぼでした。しかし、1999年の宅地開発で消えゆく運命にあり、有岡小学校にビオトープを作り、そこで保全することになったのです。そして8年の歳月を経て瑞穂小学校区に里帰りし、保全の輪を広げました。絶滅危惧種はデンジソウだけではなく、池の中のクロメダカもそ

うです。クロメダカは藤井校長先生が勤めておられた逆瀬台小学校のビオトープからやってきました。城山高校からやってきた秋の七草の一つフジバカマも絶滅危惧種です。フジバカマは道標の横に植えられています。

森のビオトープの分かれ道にあるこの道標、体育館前の植え込みに隠れていたのを移設したので、瑞穂小学校ができるまでは東門に近い別れ道で子ども達を見守っていたそうです。正面にはお地蔵様が座っておられ、右 池田・妙見。左、東野・野里。文化十二年の文字も刻まれている重要な文化財です。

不思議なことに、この道標の移設と同時に道標に刻まれている妙見の麓、城山高校から教育実習の先生がやってきました。城山高校は平成19年度に廃校になる園芸科をもつ高校です。これを機会にフジバカマの他たくさん植物をいただくことができましたのです。お地蔵様が命をつないでくれたのかもしれない。瑞穂のビオトープにはいろいろな「いのち」のつながりがあるのです。

(板野彰彦)



PTAのお父さんの会社も応援です。



子ども達、先生、保護者、地域の方々。



授業の中で水生植物植え付けました。



森のビオトープ、夏景色。



お地蔵様が座っておられる道標。



水のビオトープ、冬景色。